蕨市歯科保健連絡調整会議　議事録

日時　平成 28 年 7 月 7 日（木）
午前 1 時 30 分～午後 3 時
会場　保健センター健康教育室

〈出席者〉
委員：金子会長　和田委員　望月委員　羽根田委員　飯野朗子委員　飯野悦子委員　関委員
事務局：石丸所長　小林保健指導係長　長谷川保健師　加藤保健師

〈会長挨拶〉
平成 27 年度から「２０歳の歯科疾患予防推進事業」が入り、新成人を対象とした歯科検診が始まった。これは平成 27 年 4 月 1 日から施行された「歯科口腔の健康づくり推進条例」に基づくものであり、高く評価されるものである。本日の主な議題は、平成 27 年度実施事業結果についてと、平成 28 年度蕨市歯科保健事業についての 2 点。ご審議のほど、よろしくお願いしたい。

議題
〈平成 27 年度　実施事業結果について〉
◆　事務局説明：資料「平成 27 年度蕨市事業統計」に基づき説明

〈平成 28 年度　歯科保健事業について〉
◆ 事務局説明：資料「平成 28 年度蕨市歯科保健事業予定」に基づき説明

【20 歳の歯科疾患予防推進事業について】
委員：要精密検査になった方は、ご自身で受診していただくのか。
事務局：自己受診。結果については追跡していない。

【歯周疾患検診及び節目検診について】
事務局：昨年は、がん検診等統合受診券（以下統合受診券）の対象者が把握しにくいという意見を多くいただき受診率も低下した。その為、今年度は受診率向上のための対策を以下の通り行う。

1 統合受診券と共に歯周疾患検診受診券（以下受診券）を同封。対象者ごとに色を変え、大きさは全てＡ4 版で統一。（節目→黄緑　抽選当選者→ピンク　30 歳男性→黄色）
2 新たに勧奨ポスターを 1 枚増やす。医療機関以外に、公民館や大型スーパーにも掲示依頼。
3 節目対象者は、受診券が届き次第受診開始とし、早期に受診を希望する市民に対応。
4 節目対象者全員に 10 月下旬「受診勧奨通知」を発送。
5 統合受診券封筒の変更（以下の文言を追加）
表面「節目年齢の方は受診券を同封しています。」
裏面「歯周疾患健検診指定歯科医療機関一覧記載」
6 統合受診券　歯周疾患欄の実施内容の文言の変更

委員：去年はとにかく対象者が分かりづらかった。今回は工夫していただいたので、少しでも受診率が上がることを期待する。

委員：高齢者が多くなり、地域包括ケアが主流になっている。今の対象者では、70歳以上の方が検診の機会を失ってしまう。年々、歯の残存率を高くなっており、義歯の方でも唾液の中の歯周病菌から、誤嚥性肺炎になる可能性もある。その為、それ以上の年齢の方々に対してはどのように市として、ケアしていくか考えをお聞かせ願いたい。

事務局：市の事業ではないが、埼玉県広域連合で、75歳を対象にした歯科健診が始まった。
市としては、30歳を除いて40歳から70歳までの方々に対して「健康増進法」に基づいた節目年齢を対象にして実施している。今のところ、対象者の引き上げは考えていないが、今後法律の改正も予想される。御意見は貴重なものとして受け取り、今後政策の中で考慮していきたいと思う。

委員：今年の8020は、40人を超え50人に届こうとしている。今後、それに対して市として何か健康寿命を伸ばす対策をしているのかと問われることも多くなってくるのではないか。
数年前までは、80歳の節目検診など考えもしなかったが、80歳で歯があるがための、新たな課題が出てきているのは確か。予算の関係もあるかと思うが、是非ご検討願いたい。

委員：節目の年齢を外してみるのはどうか。申込みの方を限定年齢（案71歳以上）にすれば、生涯検診が受けられる歯科保健になるのではないか。

事務局：例えば実施期間中間で一度評価し、その時点での受診者数から後半の受診者数の予想が立った上で、残りの予算をどう使っていくか考えることは出来るかもしれないが現実難しい。
過程をもとに執行した結果、予算を上回ってしまうとそれに対して補正を組まなければいけない。もっと良いやり方があるのかもしれないが、今のところアイデアが浮かばない。

委員：予算ありきなのは仕方ない。受診率が昨年度のように落ちた場合には、その予算はあまると思うが、その予算は繰り越しされるのか。

事務局：繰り越しはない。

委員：繰り越せないのであれば、予算を年度内に目一杯使っていただく方法を検討していただきたい。検診が抽選という考え方にも違和感がある。

事務局：確かに、事務局側の見込みより、受診率が下がっているため予算はあまる。
予算の仕組みとして、あまった予算は一般財源に戻され最終的に繰越金となって次年度にまわされるが、それが歯科にまわってくるとは限らない。目一杯予算を使いたいというお気持ちは理解しているが、正確な進捗状況が把握できない限り、現状のやり方で対応するしかない。
ただ、検診ではないが地域包括支援センターや介護の方で「お口いきいき」という形での事業は始めているため、総合的に考えていく必要もあるのではないかと考えている。
抽選に関しては、今速答することはできないが調査研究が必要。スタッフの関係もあるので、その辺も考慮しながら検討していきたいと思う。

委員：高齢になったら、口の環境から嚥下までを含めた「お口の機能検診」というやり方も一案だと思う。食事が偏ってしまう高齢者が多く、便秘や貧血になる方が多い。「しっかり噛めて飲み込める」が大前提だと思う。

委員：口の機能訓練用の冊子や、事業は市にあるのか。

事務局：昨年より介護予防として、口の運動も含めた「100 歳体操」を始めている。自主グループの形で運営を目指している。冊子等はまだ出来ていないが、地域包括支援センターの方でもＤＶＤ化も考えているようだ。

委員：色々な考えがあると思うが、節目検診が 70 歳までとなると、それ以上の方を切り捨てるようなイメージがある。歯科医師としては、むしろ 70 歳からが本当の勝負と考えている。
是非ご検討いただきたい。

〈その他〉特になし

午後 2 時 40 分、事務局より閉会を宣言